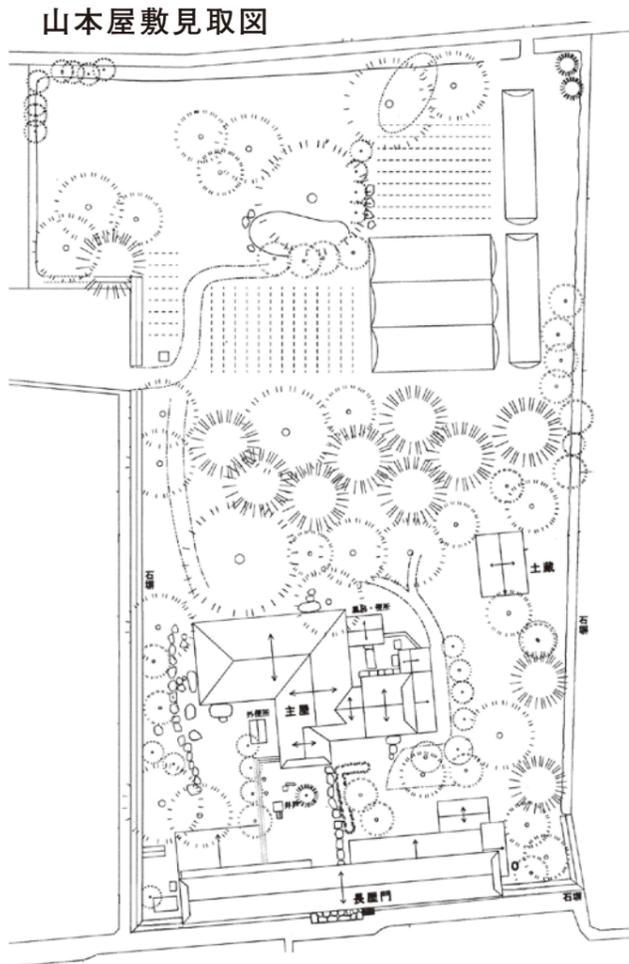


# 山本屋敷

港町の静かな通りを歩いていくと、深緑の木々に包まれるようにして建つ、瓦屋根の長屋門が見えてきます。門の向こうには、主屋が建ち、広い庭が広がっています。この屋敷は、かつての紀州藩地士の邸宅で、地元の人たちに「山本屋敷」と呼ばれ、親しまれています。200年以上前の武家の暮らしを今に伝える山本屋敷。その歴史や貴重な建築物をご紹介します。



山本屋敷見取図



- ①主屋／19世紀前期に建築されたと考えられる書院造の座敷遺構。徳川治宝によって『琴儷堂』と名づけられた建物。
- ②長屋門／長さ約40メートルの大きな長屋門。その中央には重厚な門構えがあり、大扉の中央上部には「三つ巴」の家紋がしるされている。門構えの両脇には部屋が11室並んでおり、かつて中間（主人の身のまわりの雑務に従事する人）が住んでいたとされている。見張り用の出格子窓も設けられており、武家屋敷の長屋門として格式的に整った形式をもつ。
- ③歴史を感じさせる石垣

## アレックス カー Alex Kerr プロフィール

1952年米国で生まれ、日本には1964年に初来日。エール、オックスフォード両大学で日本学と中国学を専攻。1973年に徳島県東祖谷で茅葺き屋根の民家（屋号＝ちいおり）を購入し、その後茅の葺き替え等を通して、地域の活性化に取り組む。

1977年から京都府亀岡市に在住し、麓庵有限会社を設立し、執筆、講演、コンサルティング等を開始。現在は、全国各地で地域活性化のコンサルティングを行っている。

URL <http://www.chiiori.org/>



立派な門構え、長屋、大座敷、回遊式庭園  
揃っている武家屋敷 有田市の歴史ロマンです。

東洋文化研究家 アレックス・カー

東洋文化研究家のアレックス・カー氏は、全国で数々の古民家のプロデュースに携わっておられ、昨年、山本屋敷を視察されました。このたび山本屋敷を含め、有田市に眠っている地域資源を再確認すべく、アレックス・カー氏をお招きして、講演会を開催します。有田市の歴史ロマンを感じてみませんか？

☆有田市まち・ひと・しごと 創生講演会☆

日時／10月1日（土）

午後1時30分～

場所／文化福祉センター

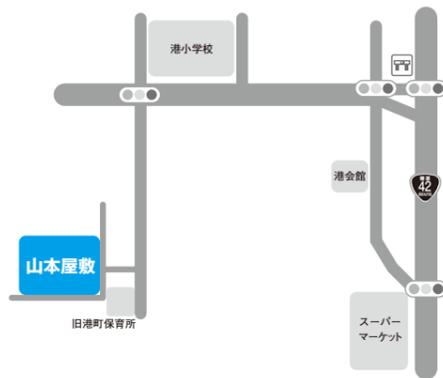
講師／アレックス・カー

（東洋文化研究家）

講演内容

『地域資源を見直し、地域に誇りを』

港町は、かつて紀伊水道を上下する回船の寄港地、また有田川を行き来する舟の終着点として重要な位置を占めていました。1653年（承応2年）、紀州藩士であった山本昌貞は藩主徳川頼宣から北湊の土地を贈られました。この地に移住した昌貞は、新田開拓を進め、その後広大な屋敷を構えます。それが現在の山本屋敷です。屋敷には、藩主を迎える書院座敷も備えられました。山本家六代にあたる山本貞信は、紀州藩主第十代徳川治宝との関係が深く、治宝が菩提寺である長保寺にお参りする際に、何度も山本屋敷を訪問したといわれています。屋敷内の書院座敷は治宝により「琴儷堂」と名づけられ、現在も当時の面影をとどめています。



※山本屋敷は個人所有のため、無断で敷地内に立ち入ることはできません。